

センターだより

平成26年2月15日

NO.49

東濃西部少年センター TEL 23-3455 FAX 26-8813

内 容

あったかい言葉がけ運動	p1
声かけ活動の振り返り	p2
古川多治見市長あいさつ	p3
3地区の地区長から	p4~p6

話してみよう 聞いてみよう みんなで築く 地域の未来

東濃西部少年センターでは若者が主体的に関われる「啓発活動」を推進しています



梅の花

センター職員

所 長	宮嶋 昌治
指導主任	坂井 正昭
事務担当	柴田 弥生

『あったかい言葉』がいっぱい

「子どもを地域で守り育てる県民運動推進会議」

1月29日、恵那市の東野コミュニティーセンターで「東濃地区 小・中・高生徒指導連携強化委員会 子どもを地域で守り育てる県民運動推進会議」が開催されました。

この会議は、「すべての大人でいじめをなくす」ことを目標として、子どもたちに関わるすべての大人が、さまざまな場であらゆる機会をとらえて、他者への思いやりについて語ったり、いじめをやめさせたりするなどの運動を推進しています。当日は、その具体的な運動「あったかい言葉がけ運動」の『優秀作品』が発表されました。ここでは二点だけですが紹介します。「月だより」でも紹介しますので是非ご覧ください。（東濃教育事務所では応募受付継続中です。応募用紙はセンターにもあります。是非みなさんもいかがですか。）

試合直後、負けを認められず悔し泣きをした自分に、「最高のプレーありがとう」と先輩が言ってくれた。「こちらこそ」と感謝の気持ちでいっぱいです。（南ヶ丘中 澤田二稚花さん）

母親にしかられたけれど素直に「ごめんなさい。」が言えずに泣いている姉に、「ついていってあげるから、いっしょにあやまろう。」と優しく声をかける妹。けんかもするけど、困った時は助けあえるね。（坂下小3年保護者 熊澤祥子さん）

「声かけ活動」の振り返り

東濃西部少年センター

平成25年4月から12月の「声かけ活動」を振り返ってみます。

声かけ活動は、指導員194名（多治見14班99名・瑞浪9班41名・土岐11班54名）の皆さんが、各小学校区を基本エリアとして、月1回1時間程度の声かけ活動を実施していただいております。毎月の巡回終了後、「声かけ活動」の様子を指導日誌に記入し、少年センターに送付していただいております。その指導日誌から3地区の子ども・若者の現状をまとめてみました。

「25年度から「街頭指導」を「声かけ活動」に統一し、以前の不良行為や非行の防止を主とした補導から、全ての子どもや若者の健全な育成を願う指導に軸足を置き、近所のおじさん・おばさん感覚でのあいさつ・はげまし・ねぎらいなどの「声かけ活動」に力を注いできました。

その結果、24年度にも増して、子どもや若者と明るく気持ちの良いあいさつができるようになったとの報告が目立っています。これは、「声かけ活動」への理解が、着実に深まっていることの結果だと考えています。このような「声かけ活動」の積み上げが、子ども・若者との人間関係を深め、非行・犯罪防止の力になるであろうと信じています。

また、花火大会や夏祭りが集中する7・8月の期間は、21時～22時までの時間帯に、イベント会場やJRの駅周辺で、夏休み夜間特別声かけ活動を実施していただきました。爾来この時期、各地区で一部若者によるたむろや喧騒などの迷惑行為が、巡回後の指導日誌で報告されていましたが、今年度は、



声かけ活動

関係機関や各種団体様のご尽力もあって、多治見市、瑞浪市、土岐市共大きな問題はなかったとのことでした。皆様方のお蔭で本年度は、大過なく過ごせております。」

少年指導員さん方には、平成25年5月18日の土岐市プラザにおける委嘱式から今日まで、お忙しい中、巡回活動をしていただいております。本当にありがとうございます。指導員さん方の任期は、平成26年4月までです。指導員さんを出していただいている団体の1つ民生児童委員さんの会では、11月末をもって任期満了となられた方もおみえと聞いておりますが、4月の指導員任期満了までは、巡回を何卒よろしく願いいたします。学校関係では、3月末で異動される方もおありかと思っておりますが、異動されても巡回可能な場合は、4月もよろしく願いいたします。

なお、平成26年度の少年指導員委嘱式は、5月10日（土）午前10時から多治見市文化会館で行う予定をしております。

青少年健全育成

東濃西部広域行政事務組合 管理者
多治見市長 古川 雅典

今日の子どもを取り巻く環境は、少子高齢化や社会状況の変化によって大きく変化してきています。地域コミュニティの希薄化により、引きこもりや非行などの問題も散見されるようになり、凶悪事件の加害者が未成年者であることも見受けられます。

子どもは、本来自由な発想に基づいて闊達に活動するものです。青少年が間違っただ道を進まないために、地域が見守り、育ていくことが重要になります。

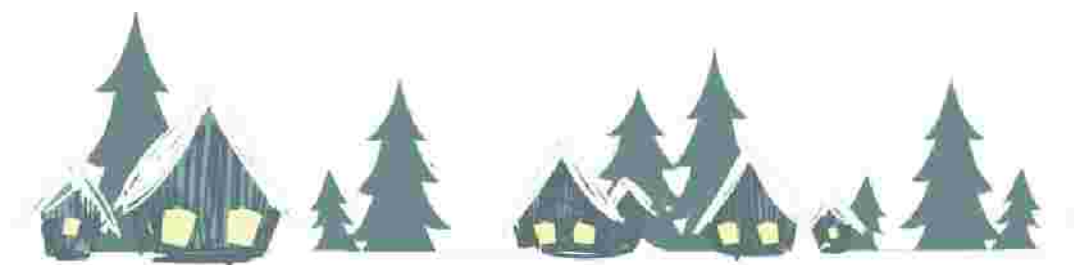


多治見市では、教育環境岐阜県ナンバー1を目指して「脳トレ」の取り組みを進めてまいりました。平成25年全国学力・学習状況調査では、小中学生ともに平均正答率が全国平均、岐阜県平均を大きく上回り着実に成果を上げてきています。さらに全国平均を下回っている体力・体格を5年かけて全国平均まで引き上げる「体トレ」の取り組みを引き続き進めていきます。

また、健全な青少年を育成するためには、親がしっかりと育てなければなりません。多治見市では、教育委員会において、親育ち支援委員会を設置して子育てを行う親へ親育ちを促進する施策の提案を行うなどの支援を行っています。さらに、子ども支援課において、多治見市子育て支援会議において幼児期の学校教育・保育や地域の子ども・子育て支援を総合的に推進するための計画策定を進めております。

学校以外での生活においては、地域が連携して健全な青少年の育成を推進していく必要があります。しかしながら、地域住民の見守りだけでは、手が足りないというのが現状です。そこでこれまで行われてきた東濃西部少年センターの街頭巡回や関係機関と連携した各種相談活動及び少年指導員の地道な活動が、今後も心に悩みを抱える子供の支えになっていきます。

計画は薄くて内容の濃いものとして、現地現場で実行・実践することが重要です。青少年の健全な育成のため、今後も引き続き皆様のお力添えをお願い申し上げます。



少年指導員として10年間を振り返って

多治見地区長 和田良輔

私が少年指導員をお受けしたのは、約40年間に亘る職業人を63歳にて終わり、自分なりにこれからの生活は、何か地域社会のために貢献できるボランティア活動をと考え、保護司を希望し多治見保護司会の一員となり、一年を経過した時、先輩保護司から「和田君、少年指導員として若者の健全育成のため、この役を引き受けてほしい」旨の話がありました。即、私は「お願いします」と返答をしたことを思い出しました。爾来十年間、東濃西部少年センター多治見地区指導員として諸活動に参加することができました。

この活動を通して、私のこれまでの人生経験の中で一番すばらしい最高の集団の皆様方と接することができたことは、私の最大の財産となったことと思います。

と申しますのは、多治見地区指導員の構成メンバーは、青少年まちづくり市民会議、市内各小・中・高等学校の先生・PTAの役員、民生児童委員、更生保護女性会、多治見地区保護司会の夫々の団体からなる、全国に例を見ない組織化された活動であるということです。これらの方々は、当初から将来の日本を託する青少年の健全育成を目的とする諸団体から選ばれた方々だったのです。

このような、メンバーの皆様と月一回の機会ではありますが、第12班（脇之島校区）の班員として十年間に亘り参加させて頂き、巡回指導時の先生と生徒達の「声かけ」、市民会議の方々と地域のおじさん・おばさんとの会話、また民生児童委員・更生保護女性会の方々と保護司としての共通話題等々、数えきれない多くの事を学ぶことができました。振り返ってみますと、この十年間がアーンという間に過ぎた感が致します。

この間、私は班員・班長そして地区長としてその任に当たらせて頂き、感じたことはただ一つ。それは子供達は、50～60年前の私達の時代と何も変わっていないということです。変わったのは、地域社会の環境と家庭内の環境、なにか大人と言動の全てが悪いほうに変わったのではないかと……。これがため、私達大人が今一度日本人の原点に立ち返り「子供達と同じ目線で、物事を見て「声かけ」をすること」が何より大切ではないかと思うのです。

今の私達の活動は、かつての不良行為や非行の防止を主とした補導から若者全員の健全育成を第一とし、彼等との信頼関係を深めることがより一層大切になってきたことを自覚して「みとめて・ほめて・はげまして」を心に刻み「声かけ活動」に軸足を置くことが必要かと思えます。

このすばらしい集団が、心をつにして創意工夫を重ね一步一步前進して行くことが、私達大人に与えられた使命ではないかと思えます。

私も微力ではありますが、このようなすばらしい組織の指導員の皆様と共に、これからも月に1度の貴重な「声かけ活動」に参加をし、黄色の帽子とベストを身に着け、心をこめた声かけ活動を実施し少しでも地域社会に貢献できればと思っております。

今後共よろしく御指導の程お願い申し上げます。

瑞浪地区 ある日の巡回活動

瑞浪地区長 三宅 滋郎

午後6時50分 瑞浪交番着、署員に挨拶の後、ロッカーより懐中電灯とゴミ袋、火ばさみを取り出す。(瑞浪では巡回時にゴミ拾いを兼ねています。巡回しながら落ちているゴミを拾うことは環境美化になり、又、ゴミは捨てないという警告活動と思っています。)

全員(5名)集合後、まず車で駅裏広場へ。ベンチに迎え待ちの学生がいる。声をかけるが、ベンチ下には飲食した後のゴミがある。トイレは喫煙事例が多いので中を確認する。駐輪場へ移動すると、盗難や不法投棄の自転車が多い。部品のないものも多い。

駅前に移動。ベンチで飲食中の学生に、ゴミは必ず持って帰る様に声かけする。(ゴミは持って帰るものとされ、行政によりゴミ箱は灰皿もすべて撤去されたが、人が集まる場所、待つ場所にはゴミは付き物。環境意識はあっても、捨てる所がないため、あちらこちらに捨てられてしまいます。駅前にゴミ箱、灰皿は必要かと思えます。)

やはりベンチの下はゴミまみれ。タバコの吸いからも多く、全員で拾う。脇道より蟹淵公園へ移動。高校生の男女に早く帰るように声かけ。川原にもひと組。そこにも早く帰るように声かけ。

次は竜門橋へ。橋の下に高校生の男女がひと組。暗い中にいるので照らして、早く帰るように声かけ。さくら散歩道で散歩中の夫婦に、「ご苦労さま。」とあいさつされる。街路灯が切れているので、市へ連絡するためメモを取る。明德橋を過ぎ、公園通りを帰宅中の高校生に声かけ。部活帰りで、皆しっかり返事を返してくれる。気持ちがいい。

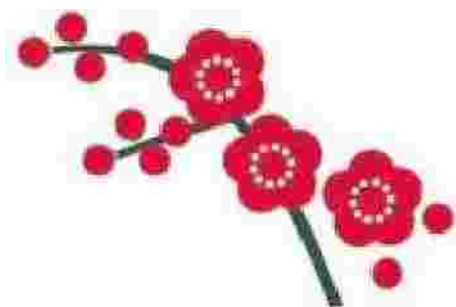
再び駅前に戻り、車でもう一度巡回のルートをたどり、市役所裏公園へ。異常なし。パロー裏、問題の多い地下道へ。車を降り、中に入る。やはり、飲食のゴミとタバコの吸いから多し。(ここは高校生の喫煙所となっている。壁はすべて消したはずの落書きが、又書かれている。本当に困ったものと、ため息が出る。)ゴミ拾い後、白山神社裏をたどり、交番に帰る。

署員に本日の様子を話した後、指導日誌に記入後、解散。約1時間半の活動。本日もゴミは袋の半分ほどになった。以上がいつもの瑞浪地区の巡回です。毎回、ほとんど同じです。

時々声かけなのか、ゴミ拾いなのか、分からなくなる時がありますが、せつかく廻るなら環境美化のためにもなることですので、続けています。ただ、本来の役割は、青少年た

ちへの声かけなので、そのことを忘れず、声かけを第一に考えて活動していきたいと考えています。

『定期巡回(継続)は、社会秩序を守る(力)』



少年指導員になって10数年の今思うこと

土岐地区長 道林 曠

平成25年12月10日中日新聞夕刊「こちら編集委員室」の記事の冒頭に「耳を疑うような話を聞いて暗い気持ちになった」と始まって「目の不自由な人の白杖を蹴飛ばす者がいる」という信じられない記事が目についた。真っ先に思ったことは「誰が蹴ったのか」「少年でなければ良いのに」と。(大人なら良いということではない。)

又、東濃西部少年センターだより 48に投稿された多治見駅長さんの『多治見駅を気持ち良くご利用頂くために』の記事で、駅長さんや社員の方が、次の二つのことを重点に、毎日取り組んでおられることを知り、私も土岐地区長として土岐市駅周辺の環境浄化のために係っているので、ひとごととは思えなかった。その一つ「明るく爽やかに挨拶する」では「おはようございます」と挨拶しても返事は「当然として、制服を着ていた学生から帰って来ることは全くありません」と手厳しい。二つ目の「岐阜県で一番綺麗な駅を維持する」では、多治見市花火大会時の「未成年と思いき若者たちによる駅前広場で、車座になっての飲食・喫煙によるゴミ・吸殻をそのまま放置していくことも、大人を含めたマナーの悪さから責められません」と毎日清掃しておられるという。全くご苦労様です。

「こちら編集委員室」と「多治見駅長さん」の暗然とせざるを得ない事例から「自分のことしか考えず、他人を思いやる想像力のかけらさえない人間が増えていくと、これからの社会はどうなってしまうのか」と、手を拱いている暇はないことに気づく。少年センターの指導員として活動するようになって10数年になりますが、当初「少年の健全育成」という重要なテーマに取り組んでいて「やりがい」を感じていたが、大きな勘違いをしていたようです。全くもって、今日まで何をやってきたのかとくやんでしまいます。では、今なにをすべきか。中日新聞「こちら編集委員室」の記者は『あまり大きな問題の前で途方にくれてしまうが、とりあえずは街で困っている人々を見かけたら少しでも手助けしようと思う。この世の中にはまだ「善意」が健在なのだと僅かなりともしめしたいからだ』と。そして私(東濃西部少年センター指導員)は、公に委嘱された身分・立場であってもできることは、口頭による呼びかけ、注意だけです。しかし、今でもまだ若者の問題行動に出会った時、初対面の相手で、しかもグループであれば躊躇しがちになるが、平静を保ち近所のおじさん・おばさんがする言葉や態度で、根気よく話しかけるよう心掛けようと思っている。見覚えのある少年には「何度か話しかける内に、いつか聞く耳を持ってくれるようになる筈」と信じて。

さっそく、明日からの街頭に立ちたいと思っている。

